

鍵は生産性向上、担い手確保

座談会 福祉の現状課題から未来へ向けて

▽介護の日とは

「介護の日」は厚生労働省が平成20年に制定し、この日を中心に介護の意義や重要性についての周知・啓発活動が行われる。介護の業界では現在多くの課題があり、多くの法人・施設では生産性の向上、ワークライフバランスや働き方改革等も含めてさまざまな取り組みを実施しながら、マンパワーの確保を進めつつさまざまな課題の解決に向けて尽力している。介護の現状と課題、展望について奈良県老人福祉施設協議会の秋吉美由紀会長、奈良県地域包括・在宅介護支援センター協会の東(あずま)武志会長、奈良県社会福祉法人経営者協議会の林昌弘理事に語り合っていた。

11月11日は介護の日

東 介護の日は平成20年に制定されましたが、国民の間であり広く知られていないと思います。「11月11日は介護の日」ということを、もっとPRしていかなければならないと思っています。私も法人が特別養護老人ホームを始めたのは昭和47年ですが、当時は高齢者や障害者はその家族が面倒を見るというのが一般的で、介護という概念はなかったと思います。そのため、当時、奈良県には特別養護老人ホームが5カ所しかありませんでした。しかし時代とともに平均寿命が延び、平均寿命と健康寿命との差は何らかの介護を必要とする期間として捉えられるようになってきました。介護について、ほとんどの方は普段考えないこととなり、介護をしなければならなくなった時初めて直面することとなります。また、介護を必要とする当事者も、その前々から自分の介護について考えている方は少ないと思います。介護に

▽現状
現在の福祉・介護業界を取り巻く環境は、秋吉 福祉は「誰一人として取り残さない」のが基本理念です。しかし将来的に今の福祉サービスという点を危惧しています。介護サービスのニーズは高まっている一方で、少子高齢化の中で介護の担い手が減少し、これは介護の業界になりつつあるのが現実です。奈良県では2023年の出生数が2

林 秋吉会長がおっしゃったように、マンパワーの面から現在の介護サービスの水準の維持が困難になりつつあるのが現実です。奈良県では2023年の出生数が2

林 見守り機器、インカム、パソコンなどのデジタル機器の導入は生産性向上につながり、省力化を図ることができています。見守り機器による夜間の見守り業務の軽減、インカムによる緊急時も含めて一斉の情報伝達、パソコン導入による事務作業の集約と情報共

林 見守り機器、インカム、パソコンなどのデジタル機器の導入は生産性向上につながり、省力化を図ることができています。見守り機器による夜間の見守り業務の軽減、インカムによる緊急時も含めて一斉の情報伝達、パソコン導入による事務作業の集約と情報共

林 見守り機器、インカム、パソコンなどのデジタル機器の導入は生産性向上につながり、省力化を図ることができています。見守り機器による夜間の見守り業務の軽減、インカムによる緊急時も含めて一斉の情報伝達、パソコン導入による事務作業の集約と情報共

林 見守り機器、インカム、パソコンなどのデジタル機器の導入は生産性向上につながり、省力化を図ることができています。見守り機器による夜間の見守り業務の軽減、インカムによる緊急時も含めて一斉の情報伝達、パソコン導入による事務作業の集約と情報共

林 見守り機器、インカム、パソコンなどのデジタル機器の導入は生産性向上につながり、省力化を図ることができています。見守り機器による夜間の見守り業務の軽減、インカムによる緊急時も含めて一斉の情報伝達、パソコン導入による事務作業の集約と情報共

知ってほしい 介護の現場

11月11日は介護の日です。これは「いい日、いい日、毎日、あつたか介護ありがとう」という介護の日のキャッチコピーからきています。

「ありがとう」という感謝の言葉は思っても口に出さないとうまく伝わりません。

今日は介護の日、皆さまも「いい日、いい日」と口に出してみてはいかがでしょうか。

さて全国老協では、全国約1万1000施設が加入している団体でございます。各地域の問題に対して助け合いの元、日々活動を続けております。

助け合い感謝を伝え

公益社団法人全国老人福祉施設協議会会長

大山 知子



際し、早急に全国老協版DWA Tの活動を展開させ、今なお活動中でございます。

現在、奈良県老人福祉施設協議会には、奈良県内の社会福祉法人が運営する養護 特養、軽費・ケアハウス、デイサービスセンターの事業所205施設が加盟しています。

現在、奈良県老人福祉施設協議会には、奈良県内の社会福祉法人が運営する養護 特養、軽費・ケアハウス、デイサービスセンターの事業所205施設が加盟しています。

老人福祉の増進を

奈良県老人福祉施設協議会会長

秋吉 美由紀



日、「いい日、いい日、毎日、あつたか介護ありがとう」という思いから、高齢者や障害者に対する介護を国民に身近に啓発していくこと「介護の日」と定めました。私たちは、この「介護の日」に、改めて急激に進みゆく超高齢社会に向けて、介護を社会全体で我が事と受け止め支えていかなければと思っております。奈良県老協は、その核となり皆さまと共に歩んでいくことを心新たにしております。

結ぶ・繋ぐ・包む存在

奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会会長

東 武志



援センター・在宅介護支援センターであります。今年も「介護の日」を迎えるにあたり、地域を「結ぶ・繋ぐ・包む」存在である地域包括支援センター・在宅介護支援センターが、これまで担ってきた役割を再認識するとともに、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指して、また、今後さらにより良い地域となるために、私たちができることをこれからも広げていきたいと思っております。

笑顔でつながる 心でつながる

奈良県老人福祉施設協議会

〈ビジョン〉 地域をむすぶ・つなぐ・つつむための未来像

奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会



11月11日は「介護の日」です。

に第6回地域共生社会推進全国サミットinこまが開催されました。いま福祉や介護は行政や施設だけでなく、地域で共に助け合っていく必要があります。この趣旨の会合ですが、全国的に見て生駒市の取り組みはすごいと評価されました。そうした取り組みが県内や全国的に広がって欲しいと思っております。

秋吉 高校生に将来に何になりたいと尋ねると、医療・介護関係の従事者になりたいという答えが一定程度あります。家族が苦しんでいる状況や介護の現状を見て、私もそのような仕事で貢献したいと考えているようです。また最近、高校生が施設見学に来てくれました。施設では社会交流の一環として子どもたちの訪問を受け入れており、子どもたちはもちろん入所者の高齢者も喜んでいました。このようなイベントを通じて福祉・介護の現場を知ってもらい、次代を担う若い世代の中から福祉・介護の世界に入ってきてほしいという人たちが出てきてくれると、激しい現状の中にも明るい展望が見えてくるのではないのでしょうか。そのことを期待しつつ、介護の仕事に日々取り組んでいきたいと思っております。